

# 報告ダイジェスト

- ・虐待防止研修報告 (報告1)
- ・出張美術館/アルバルク東京さん!ありがとうございます!! (報告2)
- ・中堅職員研修報告 (報告3)
- ・超短時間雇用/退職のご挨拶 (報告4・報告5)

## 報告1 虐待防止研修～虐待防止と職業倫理～

2月24日に国立市にある社会福祉法人滝乃川学園の本多公恵氏をお招きし、虐待防止研修が開催されました。この研修では職員、アルバイト関係なくほぼ全員が参加しました。

- ・障害者虐待防止対策について
- ・令和2年度虐待対応状況調査結果について
- ・行動障害と虐待防止について
- ・身体拘束適正化について
- ・グループワーク

という内容で講義が行なわれ、その後のグループワークの時間は入居者に対する自分の支援を振り返るとても良い機会になりました。

ホームでは一人勤務のことが多く、今回の研修の様に職員が集まり、お互いの支援について話すという機会がありません。職員みんなと入居者に対する自分の声掛けだったり、対応の仕方がグレーゾーンではないか、普段の支援方法での困りごと等、お互いの意見を素直に言い合うことで「悩んでいるのは自分だけではないんだ」「今日から声掛けの仕方を気を付けよう」と意識するきっかけになったと思います。

講義の中で「第三者から見られても良い支援を」「科学的な根拠を持って自分が行なった支援についてきちんと説明できるように」という言葉がとても印象に残っています。福祉についての知識を学ぶことだけではなく、支援について振り返りの時間を設けたり、悩み

ごとを抱え込まず職員同士で何でも言い合える風通しの良い環境を作ることが虐待を未然に防ぐことにも繋がるのではないかと感じました。

(ぱれっとホーム 香取麻子)

本多さんが「普段支援している中で、何か困難なことに直面し気持ちの整理がつかない際は、その気持ちを内々に溜め込まず、周りの職員に話して解消できるような、気持ちを共有できる風土づくりをしていくことが大切だ」と話していたことが強く印象に残りました。私は周りの職員にすぐに話したり相談できるタイプの人間ですが、それが難しい人も中にはいるかもしれないので、常日頃から周りの職員の様子に気を配り、居心地の良い職場づくりをこころがけていきたいと思いました。

また、おかし屋ぱれっとのグループワークでは普段から思っている事についてそれぞれ意見を出し合いました。その中で、メンバー達に何か聞かれた時、「ちょっと待ってて」という声かけをしがちではないかという話がでました。自分の目の前の仕事を優先してしまっていないか、はたまた自分のタイミングで決めてしまっていないかと。具体的な代替え案として、「ちょっと待ってて」ではなく「〇〇が終わってから」と具体的な区切りでわかりやすく伝えるようにしたり、別のスタッフに聞いてもらうように伝えてみるのはのかなど、自分たちの日頃の支援を振り返るとても有意義な時間となりました。

(おかし屋ぱれっと 松本亜沙子)

## 報告2 美容院で「出張まるごと美術館」開催!

12月9日～2月28日まで、南青山にある美容室 AYOMOT にて、「フクフクプラス×工房ぱれっと 出張まるごと美術館」を開催しました。フクフクプラスが連携する障がいのあるアーティストの作品と、工房ぱれっとで作られたスペシャルな「らぶらび」を白を基調としたサロンの店内で展示販売しま



した。AYOMOT 取締役の佐藤まり子さんは「店内がとても明るくなりました。とってもパワーを感じる作品ばかりで、お客様やスタッフからも大好評です。デザインやアートの力って凄いなと改めて実感しました」とのことです。開催前には、AYOMOT のオーナーやスタッフの皆様には社内勉強会という形で私達の事業や障がいのある人の就労について知識を深めていただき、サロンを訪れるお客様にもご紹介いただけるよう努めました。更に、興味を持ってくださったお客様と交流を深めるため「らぶらび」作りの参加型ワークショップも毎月1回開催しました。工房ぱれっとのメンバーと机を囲んでお話をしたりしながら、小さなお子様から大人までたくさんの方が楽しんでいけました。ワークショップに参加したメンバーの榊川里穂さんは「サロンが綺麗だった。(参加者の作った)うさぎがかわいかった。特に洋服が素敵だった」と刺激をもらったようです。新しい出会いの機会をいただきありがとうございました。

(工房ぱれっと 玉井七恵)

## 報告3 アルバルク東京さん、ありがとう!!

シブヤフォントを公式グッズに採用いただいたり、シブヤフォント新データ発表会の審査員をしていただいたご縁から、1月、2月と連続してプロバスケットボールチーム「アルバルク東京」さんのホームゲームにご招待いただきました!会場の国立代々木競技場第一体育館はチームカラーの赤で彩られ、試合前から会場いっぱいワクワク感が立ち込めていました。試合は大音量の音楽とMCの掛け声、観客達の拍手で、さながらコンサート会場のような盛り上がりです。選手達のプレイはスピードと迫力があり、あの大きくて重いバスケットボールが手に吸い付いているのではないかと思います。まるで魔法を見ているようでした!



見事アルバルク東京が勝利を収めた大阪エヴェッサ戦を観戦したおかし屋ぱれっとメンバーの向井滉佑さんは「パス、ジャンプ、走るところ、シュートを決めるところがカッコ良かった。チアリーダーに元気をもらった」と話してくれました。昨年おかし屋・工房ぱれっとに訪れたチアリーダーのERIさん、RENAさんもキラキラと輝いていて、人に元気や勇気を与える仕事って素敵だなあと感銘されました。「人に喜んでもらう仕事」という意味では私達の仕事も同じですね。お菓子やぬいぐるみ作りに、アートに、また頑張って取り組もう!と力をもらった試合観戦でした。

(おかし屋ぱれっと 玉井七恵)

## 報告3 社会福祉法人全国社会福祉協議会主催 中堅職員研修報告

12月19日と20日の2日間かけて、全国社会福祉協議会主催の「福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 中堅職員研修」を受講しました。この研修は、入職後概ね3～5年の節目の職員を対象に、中堅職員としての役割を遂行するための基本を学び、自らのキャリアデザインを描く内容となっています。今回はZOOMでの受講で、グループワークを中心に進められました。障がい者、高齢者、児童に携わっている事業所の職員らが参加しており、テーマの話し合いを通して、お互いの共通の悩みを共有したり、反対に自分の事業所にいると気づけなかった視点を学んだり、大変貴重な時間を過ごしました。

今回の研修で特に印象に残ったのは、服薬ミスの事例研究です。“とある事業所で、いつも昼食の服薬を担当していた職員が急遽インフルエンザで休みになり、代わりに新人職員が一人で担当することになったが同じ苗字の利用者の薬を誤って取り違えてしまった。”という事例について、顕在要因・潜在要因と解決策をグループワークで検証しました。

まず、顕在要因は、先輩職員が日常業務に忙しく、新人職員としてはなるべく助けになれるよう、本来服薬準備は2名必要なのに一人で行なったこと。また服薬袋に記載されている同じ苗字は色分けをするということを口頭で確認していたが、実際に忘れてしまったこと。一人で行なったことでダブルチェックをする体制がなかった

こと等が挙げられました。次に潜在要因としては、ヘルプに新人一名しかつけられないほど人材不足だったことや、口頭での説明のみでマニュアルや研修体制が整えられていなかったこと。また、服薬袋に苗字だけの記載だったこと等に対し事業所としての危機管理が不十分だったのではという意見もでました。事例研究一つをとっても、受講者それぞれ解釈が異なったので、グループワークでは、お互いの認識を確認することに時間がかかったことも印象的でした。

何か事故や問題が起こった際、まずは問題点を書き出し整理することから始め、現状を書きだした後は、発生順に並べて手順書との違いを比べたり、職員の関わり方等のソフト面や設備面などのハード面に分けてみたりなど、分類整理すると良いということを学びました。ここで重要となるのが、なるべく広い視点を持ち全体像として問題を捉えるということです。例えばマニュアルが守られていなかったり問題が起きても見過ごしていたりしたら教育の課題でもあるし、マニュアルがなかったり、職員が適切に配置されていなかったらそれは組織全体としての課題でもあります。常にチームで役割分担しながら利用者にサービス提供をしていることを認識し、事故等が起こった際に、組織全体の問題としてとらえ、協力しあって取り組んでいくことが重要だということを学びました。

(しづや・ぱれっとホーム 飯山直子)

## 報告4 「超短時間雇用」始まっています！

2月15日、渋谷区障害者就労支援センター学習会「一人ひとりに合った『働くカタチ』を考える～超短時間雇用の実践を踏まえて～」に、おかし屋ぱれっとメンバーの吉井彩香さんが登壇しました。超短時間雇用とは、『ごく短い時間、ある特定の業務のみ、雇用先の社員と同じフロアで行なう等の条件のもと雇用される働き方』で、渋谷区では作業所等に所属しながら銭湯や保育園等で働いている人がいます。吉井さんは昨年10月から、渋谷駅に程近い株式会社ハステック様と雇用契約を結び、平日毎朝8時から2時間程度仕事をしてから、おかし屋ぱれっとへ出勤しています。業務内容は清掃備品の整理や補充、スタッフが使用する制服の交換、フロアの清掃、ゴミ出し等です。



学習会では「社員がやっていた業務を吉井さんに任せられるようになり、他のやるべき業務に充てる時間ができた」「吉井さんが皆に気さくに挨拶をしてくれるので社内の雰囲気は良くなった」とハステック様からの言葉がありました。吉井さんは「頑張っています。おかし屋のみんなに頑張れってエールをもらって嬉しかった。（皆が自分の話をしてくれて嬉しくて）泣いちゃった。帰りに自分の給料から家族3人のケーキを買った。お父さんもお母さんも頑張ったね、と言ってくれて嬉しかった」と感想を教えてくださいました。始めてまだ比較的に日が浅い「超短時間雇用」ですが、この仕組みが企業にも障がい当事者にも知られ、働き方の一つの選択肢として可能性が広がることを願っています。

（おかし屋ぱれっと 玉井七恵）

## 報告5 中本さん、ありがとうございました！

私は、2020年1月に入職しまして、2023年3月にて一身上の都合により退職をすることになりました。皆様、短い間でしたがありがとうございました。

私は、たまり場ボランティアからのかかわりでしたので、人間関係づくりにおいて、関わる相手へ敬意をもつこと（尊重すること）をととても大切にしてきました。人はそれぞれ生まれきた背景が違いますし、当然価値観が違ってきます。私にとって当たり前のことが他者には当たり前ではないということは良くあります。価値観が違くと、たくさんのすれ違いやお互い不満が出てきます。そのような違いをどう埋めていくか、それは相手を尊重した上で、しっかり話をすることだと思います。しかし、私はぱれっとで相手にしっかり向き合って話すことができなかつたことがありました。私の思いに対して相手が受け入れられるかどうか相手の問題、ただ自分の思いを伝えることはできる、ただそれができなかつた。お互いが思いを伝えられる組織は、困難な状況になつたとしても解決していけると思っております。私はぱれっとでの経験を糧として、次の働く環境で頑張っていきたいと思っております。今までどうもありがとうございました。

（ぱれっとホーム 中本真一）